学校番号	T3017

令和８年度　学校設定教科

教科	（学）チャレンジ	科目	（学）経済的自立Ａ	単位数	１単位	年次	１年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

生計を立てる方法も多様化の時代となっている。本授業では、社会を生き抜けるよう、「将来、経済的に自立し、豊かな人生を送るためのスキル」を身につけることを目的とします。座学だけでなく、疑似株式運用や屋台運営といった具体的なビジネスシミュレーションを通して、お金の流れ、利益の構造、リスク管理、そして働くことの意義を体験的に学びます。これらの活動を通じて、社会人として求められる計画性、協調性、そして目標達成に向けた「稼ぐ力」を養いましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
収支計算、損益分岐点、利子、株価の仕組みといった基礎的な経済・金融の用語と概念を習得し、それらをビジネス計画や家計管理に応用することができる。
【思考力、判断力、表現力等】
疑似体験（株式、屋台）を通して、市場の変化や予期せぬ事態に対するリスクを分析し、論理的な根拠に基づいた意思決定を行うことができる。また、そのプロセスを分かりやすく表現できる。
【学びに向かう力、人間性等】
経済活動における責任感を持ち、チームや社会の一員として目標達成のために主体的に貢献しようとする姿勢を身につける。また、職業体験を通じて自己の将来の進路と経済生活を結びつけて考えることができる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	屋台運営における予算作成、株取引シミュレーションにおけるポートフォリオ構成など、実践的な経済活動に必要な知識と計算能力を正確に適用できている。	屋台運営での課題（例：原価高騰）に対し、多角的な視点から解決策を検討し、根拠をもって改善提案を行うなど、経済的な判断力を発揮できている。	チームでの役割を自覚し、屋台の企画・準備・運営に献身的に取り組み、失敗から学びを得ようと粘り強く努力する姿勢がみられる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
集中講座	基礎経済と金融	・お金の歴史、金融の基本、インフレ/デフレの基礎知識。 ・株式、債券、為替の基本とリスク分散の考え方。 ・仮想の資金を使った株式運用シミュレーションを体験し、運用の記録と分析を行う。	a: 金融知識テストで、株式運用の基礎知識と用語を正確に習得できている。 b: 運用経過レポートで、市場の変動に対して論理的な売買判断を記述できている。 c: 株式運用シミュレーションに積極的に参加し、運用方法を身につけようと努めている。	学習ワーク等	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察
	ビジネス実践	・グループを編成し、屋台・模擬店を企画・運営する。 ・企画書作成(コンセプト、ターゲット、メニュー)。 ・材料の調達と予算管理(原価率、人件費、諸経費の算出)。 ・販売活動(接客、プロモーション)。 ・最終損益計算と運営改善の反省会。	a: 最終利益計算書で、正確な原価計算と純利益の算出ができている。 b: 企画書において、ターゲット層に合わせた独創的なアイデアを具体的に表現できている。 c: 運営期間中、チームの一員として自発的に役割を果たし、目標達成に貢献しようと努めている。	学習ワーク等	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察
	キャリアと自立	・関心のある職業のリサーチと職業体験(職場見学・短期インターンシップ等)。 ・「屋台運営」で得た経験を、リサーチした職業に置き換えて分析する(例:原価率と給与の関係)。 ・将来の生活費や貯蓄目標を設定するライフプランニングを作成し、経済的自立に向けた具体的行動計画を立てる。	a: 自身の希望に沿った職業について、体系的に整理できている。 b: ライフプランニングシートで、将来の夢と必要な経済力を論理的に結びつけて表現できている。 c: 職業体験の活動に真摯に取り組み、得られた情報をレポートで具体的に記述できている。	レポート等の自己表現課題	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度